

科目	異文化コミュニケーション	担当	伊藤 春子	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	選択	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

この授業は、文化の多様性に気づき、異文化理解力とコミュニケーションスキルの向上を目標とする。「異文化」とは、国籍が異なる人の文化だけを指すのではなく、同じ国の人とでも文化、文化背景が異なることがある。例えば、男性と女性、社会人と学生、熟年者と若者などである。そこで、自分とは異なる文化が存在することを認識し、その上で、どのような心と態度で異文化を受け入れ、共生していけばよいのかを考えていく。授業では、実践の場として、日本人学生・留学生がグループとなり、ディスカッションする機会を用意する。

本授業を通し、異文化に向き合い、違いを理解し、共生していく力を養うことができる。

【履修注意】

- ・毎回の授業において、課題(タスクシート)を提出する。
- ・講義に主体的に参加し、文化の多様性に気づき、考えることを目的としているため、授業への出席を重視する。

【評価方法】

課題・提出物40%、中間まとめ25%、期末試験35%

【試験について】

筆記試験を実施する。再試験対象者の条件：総合評価が40点以上60点未満の学生

【予習・復習】

授業で出された課題をしっかりと行い、期日までに提出すること。また、授業後には授業を振り返り、実践の場として、学内において留学生・日本人と積極的に交流したり、学外での国際交流活動に積極的に参加したりすることを期待する。

【教科書】

教科書購入はなし。ハンドアウトを配布するため、ファイルリングし、毎回、持参すること。

【参考書】

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	異文化コミュニケーションとは何か	なぜ「異文化コミュニケーション」か：日本社会を知る
2	コミュニケーションの種類	文化とは、異文化とは、コミュニケーションとは
3	言語コミュニケーション①	言語によるコミュニケーション・スタイルを学ぶ
4	言語コミュニケーション②	言語によるコミュニケーション・スタイルの違いを考える
5	非言語コミュニケーション	表情・アイコンタクト・しぐさなどを学ぶ
6	価値観①	価値観の違いを理解する
7	価値観②	日本の「価値観」を考える
8	中間まとめ	前半のまとめ
9	異文化の認識	ステレオタイプと偏見
10	差別	「差別」を考える
11	異文化への適応	カルチャーショックと異文化適応
12	異文化受容	異文化受容のプロセス
13	自分を知る	異文化適応力、共感力
14	アサーティブコミュニケーション	相手を尊重しつつ、自分の意見を伝えよう
15	多文化共生に向けて	多文化環境でのコミュニケーション能力を高めよう
16	期末試験	15コマの復習・確認・総まとめ